

あーすぶらざ
かべ新聞
2014年度 第2号

助け 合っ 世界

わた
綿の実オイル



りゅうしよく
離乳食
(いんげん)



ララ物資に助けられ、子どもに笑みも=杏樹学荘で
(提供: 社会福祉法人茅ヶ崎学園)



ララ物資を受け取って喜ぶ子どもたち 1947年(昭和22年)ごろ
(提供: 広島市立本川小学校)



ララ物資の援助と、当時の鎌倉本園の子どもたち
(提供: 社会福祉法人聖公会 鎌倉児童ホーム)

みんな
うれしそうだね

だっしふんにゅう
脱脂粉乳



貧しかったあの頃…

第二次世界大戦後の日本は、食べ物だけでなく、子どもが教育を受けられないなど、苦しい状況にありました。そこで日本を助けるために様々な援助が行われました。その一つがララ物資(※1)です。

ララが来た!

ララ物資は、米国の親日団体や世界中の民間から集められた、食糧を中心とした救援物資です。1946年11月、第一号が横浜港に到着しました。積荷の中身は、ミルクをはじめとして、米の粉、バター、ジャム、缶詰、衣服、靴類450トンで、このうち米の

粉60トンが日系アメリカ人からの贈り物でした(※2)。物資の支援は1952年6月まで続けられ、中には牛や山羊などの動物が送られることもありました。

脱脂粉乳の独特の味とおいを記憶している人も多いようですが、食べ物の助けはともありがたいものでした。

全国に分配されたララ物資がベースとなり、ミルクとパンという形で、戦後途絶えていた学校給食が再開されました。

※1 ララ(LARA): アジア救援公認団体
(Licensed Agencies for Relief in Asia)
※2 『朝日新聞』1946年11月30日

浅野七之助



浅野は、飢えている日本を救いたいと在米日系人へ新聞で呼びかけます。決して日系人も余裕はありませんでしたが「たとえ一食を分かち、一日の小遣いを割いても」という言葉の下に、アメリカだけでなく、南米の日系人や、世界中から援助が集まりました。

もっと調べよう!



あーすぶらざの「国際平和展示室」には、ララ物資の頃の様子が分かる展示があります。映像や実物の展示を通して、当時の生活を詳しく学んでみよう。

写真展「昭和」

写真家が捉えた時代の瞬間
9月20日(土)~12月23日(火祝)
あーすぶらざ3F企画展示室
*展示室のご利用には観覧料が必要です。

クイズ QUIZ



1 東京タワー



2 新幹線



3 黒部ダム(富山県)
提供: (株)関電メニックス

日本が世界から助けられたものは、他にもたくさんあります。この中で、世界銀行からお金を借りて(※3)作ったものはどれだろう?

ヒント: まずは交通や電気が先だったよ。

※3 日本は世界銀行から借りたお金を、1990年7月に返済完了しています。

神奈川県立地球市民かながわプラザ

あーすぶらざ

発行: 神奈川県立地球市民かながわプラザ 指定管理者: 公益社団法人 青年海外協力協会・株式会社 金港美装
問合せ: 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1
TEL 045-896-2121 FAX 045-896-2299 <http://www.earthplaza.jp>
休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は開館)(貸出施設を除く)

あーすぶらざは、国際理解や平和、地球規模の課題について、展示やセミナーを通して学ぶ場所です。 ■再生紙を利用しています。

